

石狩湾系ニシンの漁況予報

北海道立総合研究機構 中央・稚内水産試験場
平成27年11月30日

石狩湾系ニシンの今漁期（平成28年1～4月）における漁況は、次のようになる見通しです。

- 石狩湾沿岸域では、1月下旬まで7年魚（2009年級）主体の大型群が来遊した後、2月中は4年魚（2012年級）主体の来遊となり、漁期通しての組成は4年魚の占める割合が大きくなる見通しです。
- 4年魚以上の資源量は、今のところ昨漁期（H27年）と同程度と推定されます。
- 3月以降に来遊する3年魚（2013年級）の資源量は少ない見込みで、今期も3月は低調な漁模様になる見通しです。

後志以北日本海沿岸に來遊する産卵群の全体動向の予報であり、海域により來遊傾向は大きく異なります。

本年10月に留萌沖で実施した稚内水試調査船「北洋丸」によるトロール調査の採集物は、下図のとおり、尾叉長28cmにモードのある4年魚（2012年級）が53%を占めました。一方、過去3年間漁獲の中心となった2009年級は、今期も7年魚として尾叉長30cm以上の大型群の主体となっていました。トロール調査での採集密度（1km曳網あたりの採集尾数）を昨年同時期の調査結果と比べると、4年魚、5年魚はいずれも約1.3倍の増加となりましたが、H27年漁期を牽引した6年魚以上については半減しました。これらの結果を用いて資源計算を行った結果、近年の漁獲対象である4年魚以上の資源重量は、4～5年魚で増加となるものの、体重の重い6年魚以上の尾数が大きく減少することで、H27年漁期と同程度～やや下回る範囲で推定されました。

漁模様は漁期直前の海況に影響されるため、今期も地域間で好・不漁感の違いが大きいと予想されますが、石狩湾沿岸では、水温分布等に大きな異変がなければ解禁から1月下旬にかけ6年魚以上（体重300g以上）主体で漁が進み、次第に5年魚、4年魚へと対象が移り2月中は4年魚（体重200g前後）中心で推移し盛漁期となる見通しです。ただし、主軸と見込まれる4年魚は、今期から本格的な漁獲対象となるため現時点では資源豊度が不明瞭です。この年級は稚魚期から各調査や漁業への混獲等が目立っていることから、来遊状況次第では漁模様を好転させる可能性もあります。

一方、3月以降に來遊する3年魚（2013年級）はトロール調査での採集量がわずかでした。稚魚期の調査でも採集が少なかったことから、今のところ低豊度年級と考えられます。魚体も2.0寸以上では漁獲されにくい大きさのため、3月以降の漁獲や若齢魚が來遊する湾北から留萌方面への寄与は、今期も小さくなる見通しです。

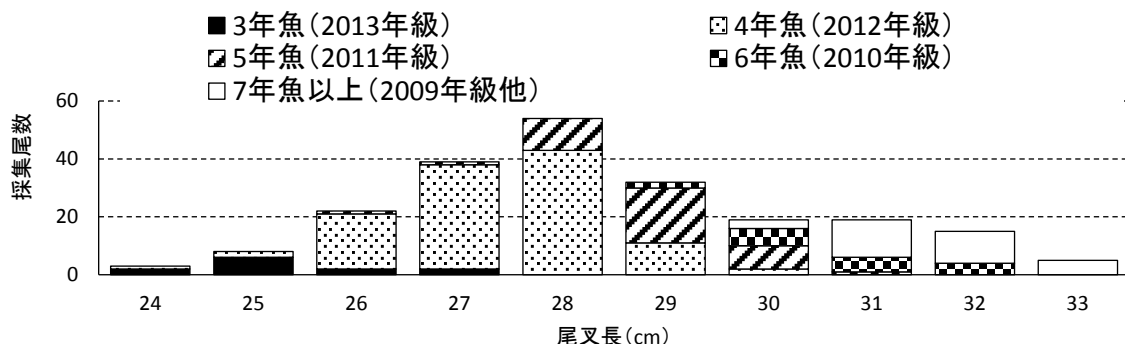


図 本年10月に留萌沖のトロール調査（北洋丸実施）で採集されたニシンの年齢別尾叉長組成

お問い合わせ：中央水試資源管理部（☎0135-23-8707）